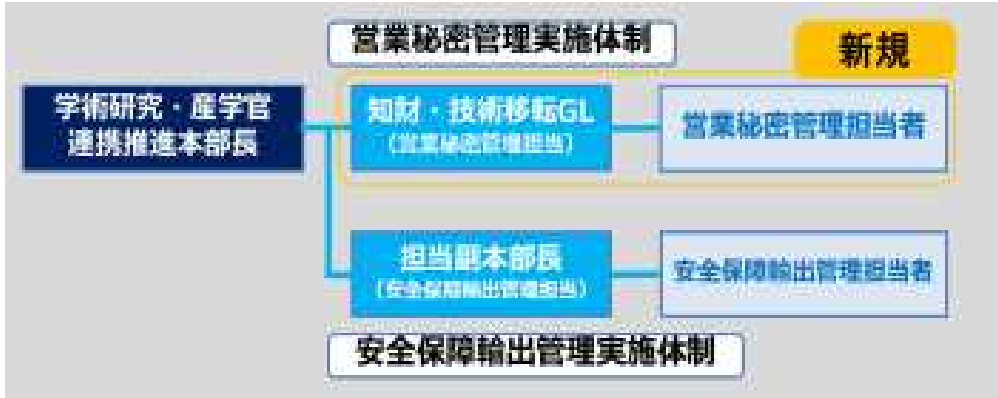


産学官連携リスクマネジメントモデル事業(1)

採択機関名: 名古屋大学

モデル: 技術流出防止マネジメント

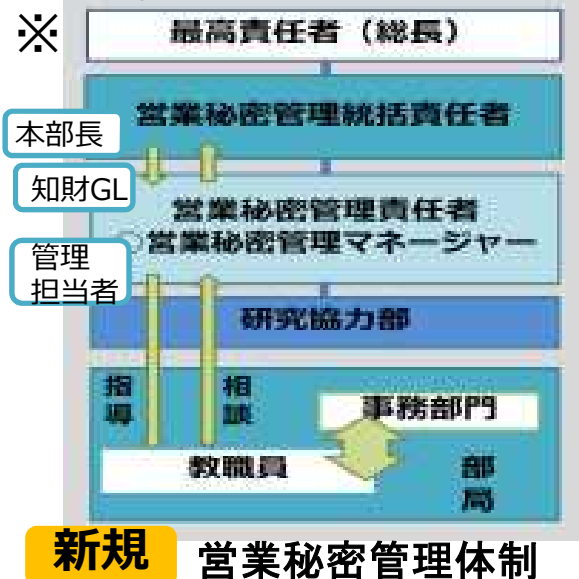
○事業の実施体制



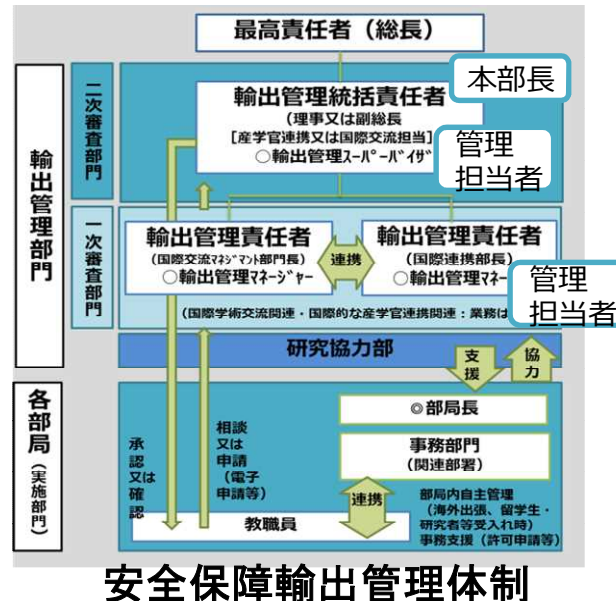
- ・学術研究・産学官連携本部長のもとに、モデル事業を推進する実施体制として「営業秘密管理実施体制」を配置する。既存の「安全保障輸出管理実施体制」と連携のうえ事業を実施
- ・営業秘密管理担当: 5名、輸出管理担当: 6名 (重複あり)

※(仮)体制、事業内で構築

○技術流出防止マネジメント管理体制



新規 営業秘密管理体制



安全保障輸出管理体制

○営業秘密管理体制(新規)

- ・営業秘密管理マネージャーは、システム構築、ガイドラインの提案、教職員から相談対応、指導等を行い、学内保有の企業秘密を中心にマネジメント

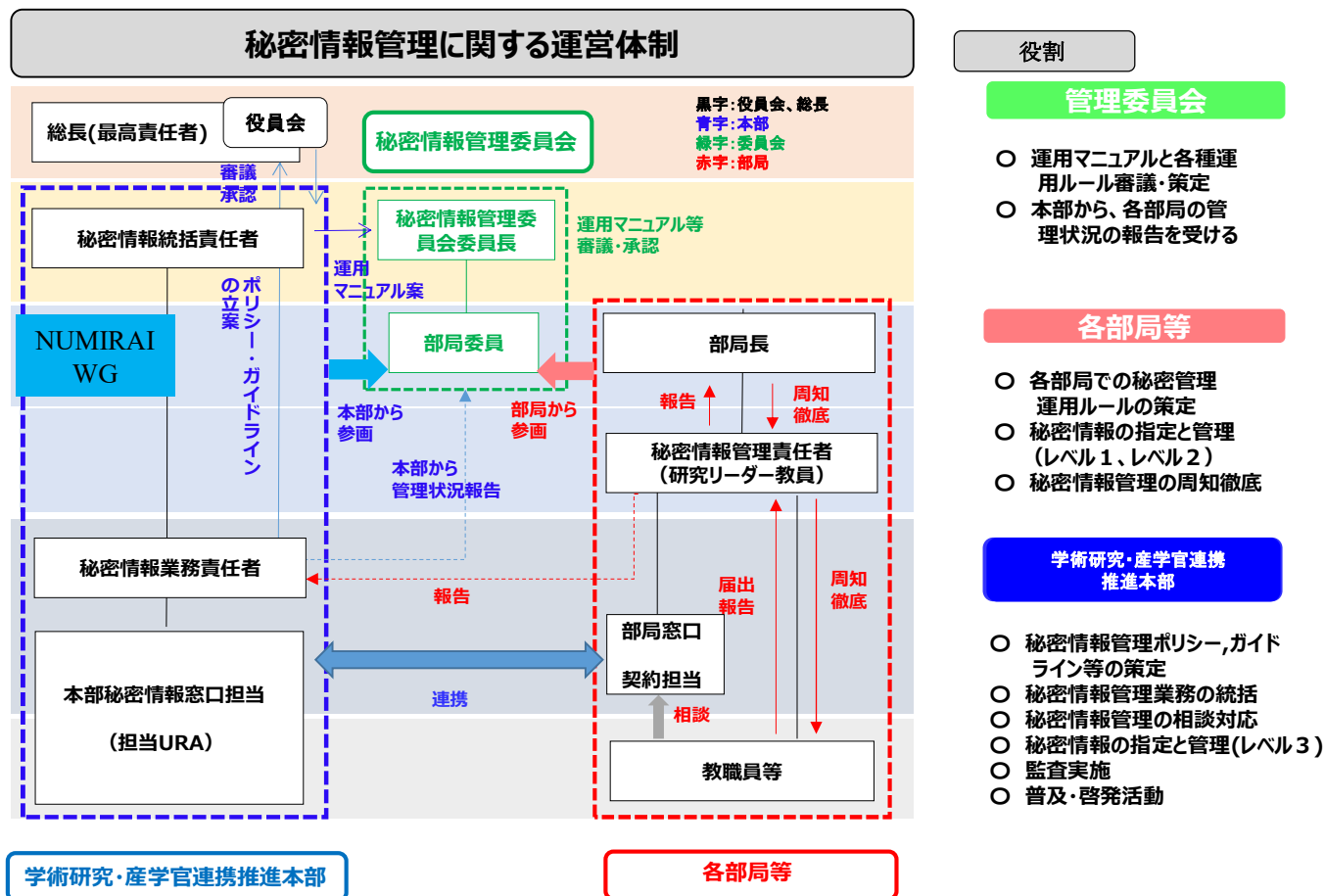
○安全保障輸出管理体制

今後の国際的人材交流の高まりから、なお一層部局や国際協力教育部門と連携を行い、留学生等に関する輸出管理を強化

産学官連携リスクマネジメントモデル事業(1)

○事業の実施体制(営業秘密管理)詳細な管理体制構築

名古屋大学では 営業秘密を含む 産学連携における秘密情報管理 について検討を進めた。



■秘密情報管理に関する運営体制と業務フローを左図に示す。総長を最高責任者とし、図の左の破線で囲ってある部分が学術研究・産学官連携推進本部で、ここに秘密情報統括責任者(学術研究・産学官担当の理事もしくは副総長)を置き、秘密情報業務責任者と秘密情報窓口担当を配置する。役割は、図の左端に示すNUMIRAI WGの内部統制管理のもと、ポリシー・ガイドライン等の策定、相談対応業務、監査、普及活動等を実施する。

■図の右の破線で囲ってある部分が各部局で、部局長のもと、秘密情報管理責任者(教授もしくは准教授)、部局窓口担当を任命する。役割は秘密情報の取得、指定、届出、管理を実施する。

■図の中央上部緑破線で囲ってある部分が秘密情報管理委員会(学術研究・産学官連携推進本部とは独立の立場)で、秘密情報管理委員長(リスク管理の理事もしくは副総長)を置き、役割は運用マニュアルや各種ルールの審議・策定を実施し、監査等の報告を受ける。

図 秘密情報管理に関する運営体制と役割

産学官連携リスクマネジメントモデル事業(2)

○構築したモデル(営業秘密情報管理)

秘密情報の等級を(レベル1、レベル2、レベル3の)3段階に設定

秘密情報を取得し、秘密情報の等級・アクセス権者の指定、届出、報告、管理業務の流れを示す。



秘密情報管理業務フロー

○モデルの内容

- 実効的・効率的なマネジメント体制・システムの構築
 - ・ポリシー/ガイドラインの構築
 - ・秘密情報のリスクに応じた等級管理で左記の「濃淡管理モデル」構築(中小規模大学も意識)
 - ・学生の共同研究参加時にはインフォームド・コンセントを実施
 - ・「秘密情報管理体制」の構築

● 学長等のリーダーシップ

- ・NU MIRAI(名古屋大学ビジョン)の考え方を活かし、マネジメントシステムの見直した。

上記のマネジメントシステムにキモを入れるため、以下の小集団活動を実施中

● 研究者等への普及啓発

- ・啓発活動の説明会実施中(5回)
- ・学内外の研究会開催中(3回)
- ・啓発ツール開発
- ・ワンストップ相談窓口設置

● リスクマネジメント人材の確保・育成

- ・営業秘密管理担当者を雇用
- ・URA研修(※)等で、専門家養成中

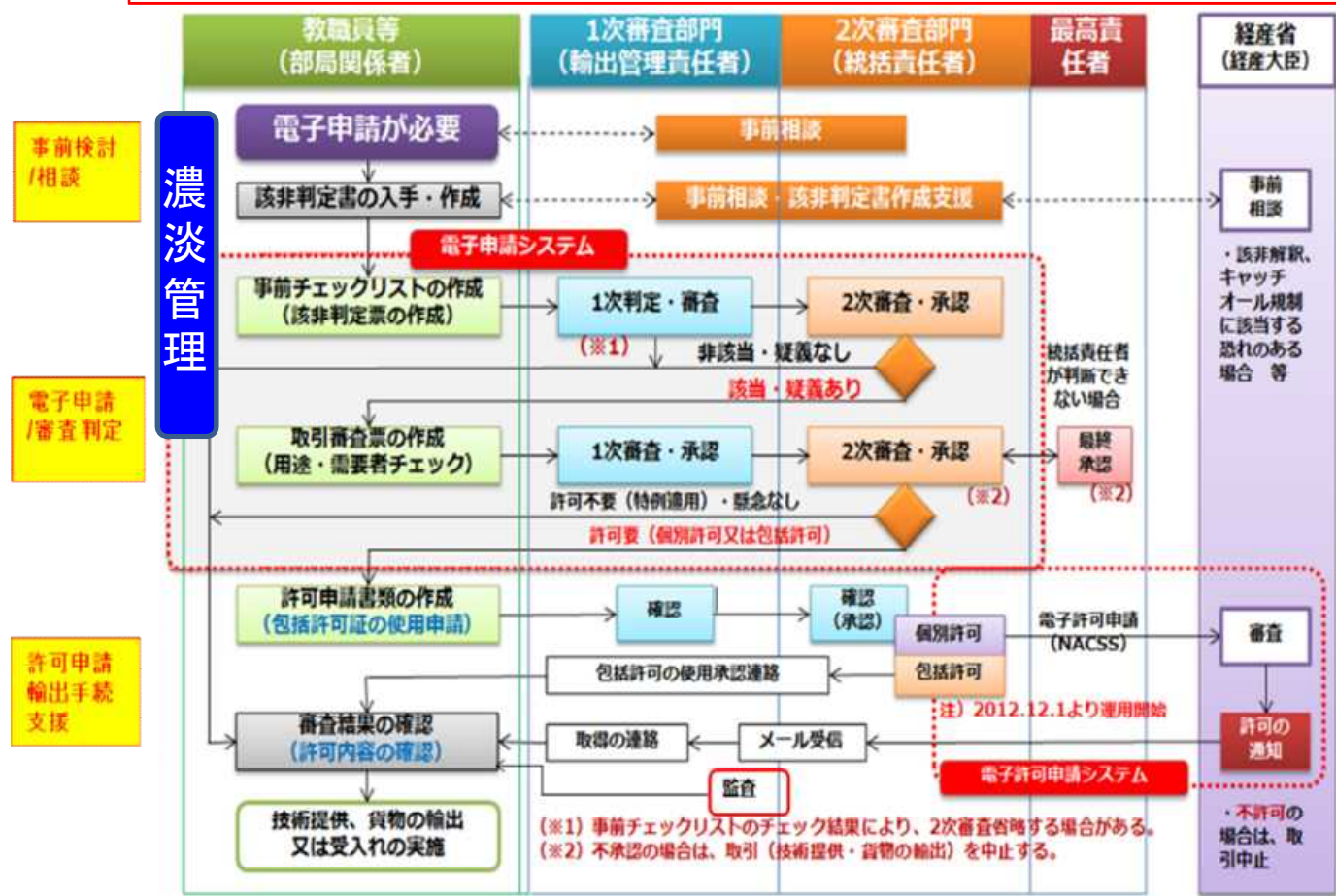
● 事例把握、情報共有

- ・東海地区大学等の連携による事例や課題の共有(東海地区知財実務者情報交換会で9月、3月に実施)
- ・全国大学・研究機関等へモデルの展開・波及を実施中(これまで問い合わせがある大学15に来訪・往訪で応えた。)

産学官連携リスクマネジメントモデル事業(2)

○構築したモデル(安全保障輸出管理)

相談・学内申請・審査/該非判定・許可申請・監査の一気通貫のプロセス



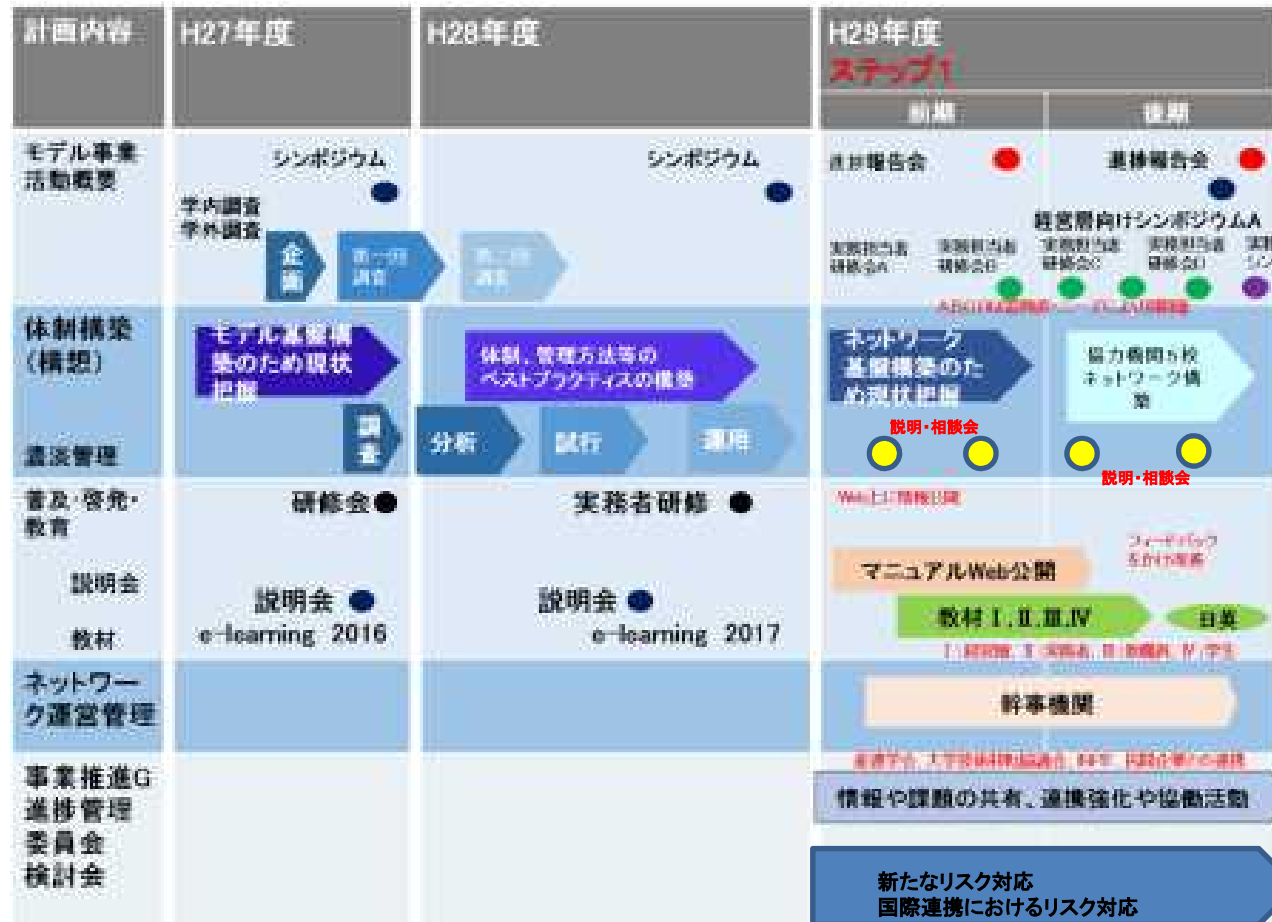
安全保障輸出管理業務フロー

○モデルの内容

- 実効的・効率的なマネジメント体制・システムの構築
 - ・研究者一人一人の保有する技術機微度と法令順守の意識度調査中
 - ・機微度等リスクに応じた「濃淡管理モデル」構築(中小規模大学も意識)
 - ・業務の流れを見える化し「一気通貫の安全保障輸出管理体制」を構築した。
 - ・申請・審査判定の部分でIT化(電子化)実効性と効率の良いマネジメントシステムを構築
 - 学長等のリーダーシップ
 - ・NU MIRAI(名古屋大学ビジョン)の考え方を活かし、マネジメントシステムを見直した。
- 上記のマネジメントシステムにキモを入れるため、以下の小集団活動を実施中
- 研究者等への普及啓発
 - ・啓発活動の説明会実施中(12回)
 - ・学内外の研究会開催中(3回)
 - ・啓発ツール開発
 - ・ワンストップ相談窓口設置
 - リスクマネジメント人材の確保・育成
 - ・安全保障輸出管理担当者を補充し戦力増強
 - 事例把握、情報共有
 - ・全国大学・研究機関等へモデルの展開・波及を実施中(これまで問い合わせがある大学15に来訪・往訪で応えた。)

産学官連携リスクマネジメントモデル事業(3)

○スケジュール



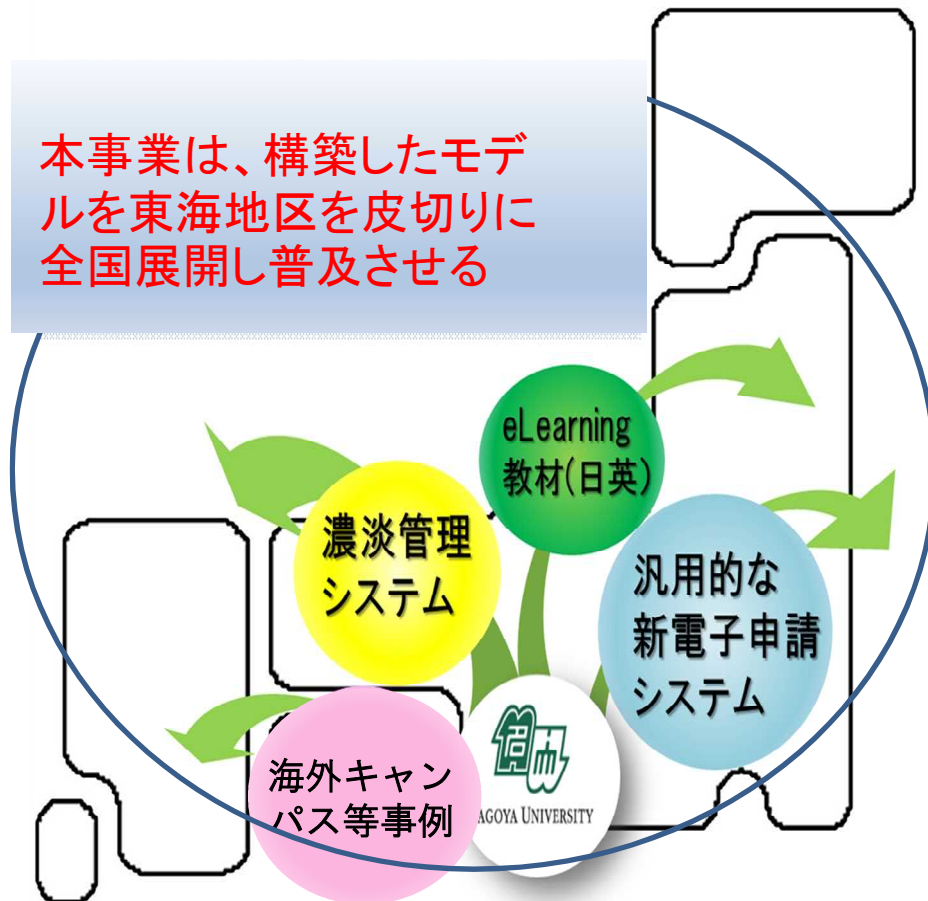
○事業実施内容

- 平成27年度(技術流出防止マネジメント基盤構築のための準備・調査)
 - ・学内調査: リスクマネジメントの現状把握
 - ・学外調査: 国内外機関の先進的取り組みの把握
- 平成28年度(基盤となる体制、管理方法やベストプラクティス等構築)
 - ・ガイドラインの制定
 - ・管理体制の構築
 - ・マネジメントシステムの構築
 - ・「濃淡管理モデル」の構築(中小規模大学も意識)
 - ・安全保障輸出管理における汎用的な新電子申請システムの導入
 - ・e-Learning等による普及・啓発活動
 - ・学外ネットワークによる情報共有
- 平成29年度以降(見直しによる更なる深化、東海地区を皮切りに全国的展開)
 - ・ネットワーク構築のための現状把握
 - ・協力機関5校のネットワーク構築
具体的には、北海道大学、金沢大学、神戸大学、徳島大学、九州大学
 - ・「濃淡管理モデル」の全国的展開
実務者研修会、シンポジウムを実施
 - ・ネットワーク協議会での情報・課題共有
 - ・新たなリスクへの対応検討
国際産学連携に関する好事例収集と課題分析。具体的には研究成果の法的制約

産学官連携リスクマネジメントモデル事業(4)

○全国の大学等への普及

本事業は、構築したモデルを東海地区を皮切りに全国展開し普及させる



○事業実施内容

- リスクマネジメントシステムのモデル
幹事機関から地域ブロックの協力機関へネットワーク展開し全国へ普及させる
- 濃淡管理モデル
類型とリスク濃度に合わせた実効的リスクマネジメントモデル「濃淡管理モデル」の全国的な展開（中小規模大学も意識）
- e-Learning教材等啓発ツール
技術流出防止マネジメントeLearning(日・英)教材や、ハンドブック・パンフレット等の公開
- 汎用的な新電子申請システム
安全保障輸出管理における汎用的な新電子申請システムの導入による効率的マネジメントの他大学等への展開
- 海外拠点、コンソーシアム等の事例
海外キャンパスやコンソーシアム等における技術流出マネジメント事例の全国的な共有・課題把握